

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：複数の特別支援学校等が参加する全国大会の開催及び
運営組織の設置等

一般社団法人日本ボッチャ協会



1 事業概要

本事業は、特別支援学校に通う生徒が、日頃の成果を発揮する場に参加することで、パラリンピックを身近に感じ、意欲的に日々の体育学習に取り組むことを目指し、生涯にわたってスポーツに親しむ姿勢を育むことを大きなねらいとして実施している。

各都道府県 1 校以上の参加がある全国大会への発展を目指し、今年度は以下をねらいとして取り組みを行った。

- (1) パラリンピック正式競技であるボッチャの特別支援学校への定着を図る。
- (2) 予選会については、オンライン開催にすることにより、学校内での教育活動の一環として取り組めるようにし、大会が日々の学習の成果を発揮する場となることを目指す。
- (3) 特別支援学校および特別支援学級等に通学する児童・生徒が、ボッチャを通じて、意欲的に日々の体育学習に取り組めることを目指す。
- (4) 大会参加においてマナーの習得および、ボッチャを通じた選手同士の交流を図り、生涯スポーツへの意識を高める機会とする。
- (5) 将来ボッチャ選手として活躍を目指す人材の発掘の機会とする。
- (6) 大会を通して指導者の指導力向上の場とする。
- (7) 協賛企業や開催自治体、開催地の体育協会と連携を図ることにより、競技を実施する環境を整備するとともに、競技を支える人の育成を図る。
- (8) 就学時からボッチャを行うことで、障がい者の継続的なスポーツ参加率の増加を目指す。

2 事業の実施内容

- (1) 大会名：第8回全国ボッチャ選抜甲子園
- (2) 種 目：ボッチャ
- (3) 参加校数：43校（1チーム選手3名～4名）内、初参加校6校
- (4) 試合方式
 - 【予 選】リモート（課題に挑戦し、動画提出）開催。
各学校において、課題に取り組む。
提出された動画を審査し、上位15校が決勝大会へ進む。
 - 【決 勝】墨田区総合体育館において対面で開催。
試合は、トーナメント方式実施。
予選会を勝ち抜いた15校＋シード校1校合計16校で対戦。
- (5) 開催期日
 - 【予 選】2023年6月9日(金)～6月18日(日)
 - 【決 勝】2023年8月10日(木) 開会式10:00～ 試合開始10:20～
- (6) 会 場
 - 【予 選】各学校の体育館等
 - 【決 勝】墨田区総合体育館（東京都墨田区錦糸4丁目15-1）

【大会実行委員長】

齋藤保将（一般社団法人日本ボッチャ協会業務執行理事、さいたま市特別支援学校教諭）

【実行委員会事務局】

片岡正教（一般社団法人日本ボッチャ協会業務執行理事、大阪公立大学 准教授）

三浦裕子（一般社団法人日本ボッチャ協会事務局長）

新井大基（一般社団法人日本ボッチャ協会普及振興部長）

刀谷 誠（一般社団法人日本ボッチャ協会 普及担当）

矢作公佑（一般社団法人日本ボッチャ協会 育成普及担当）

関 直美（一般社団法人日本ボッチャ協会事務局総務）

川越篤志（合同会社ニューウェイヴ）

【実行委員】

澤邊芳明（一般社団法人日本ボッチャ協会代表理事、(株)ワントゥーテン代表取締役社長）

市川裕二（全国特別支援学校長会 会長）

村上光輝（一般社団法人日本ボッチャ協会強化本部長）

一場友実（杏林大学 准教授）

渡 正（順天堂大学 准教授）

曾根裕二（一般社団法人日本ボッチャ協会強化副本部長、大阪体育大学 准教授）

上田裕之（一般社団法人日本ボッチャ協会育成部長、東京都立大泉特別支援学校 教諭）

鈴木清貴（石川県立いしかわ特別支援学校（前年度優勝校） 教諭）

日本ボッチャ協会学生委員会

【大会アドバイザー】 全国特別支援学校校長会

【輸送に関わる運営・手配】 近畿日本ツーリスト株式会社

【オンライン予選会運営・ホームページ運営・配信業務関係】 株式会社文化工房

【決勝大会式典等演出に関わる運営・警備関係】 株式会社 ディーエムエス

【大会運営にかかる調整・決勝大会競技進行関係】 合同会社ニューウェイヴ

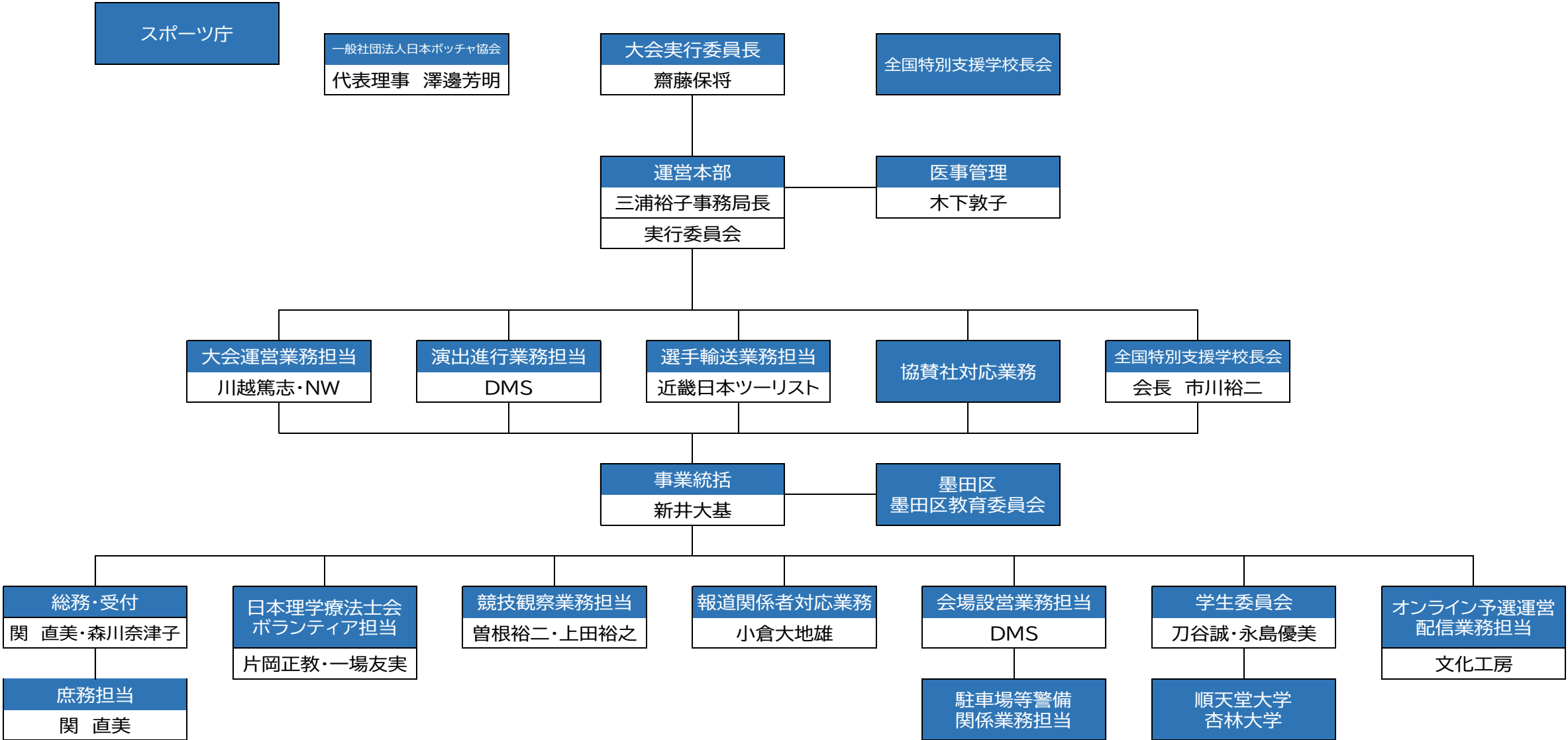
【チーム付きボランティア（後援団体）】 公益社団法人日本理学療法士協会

【協会協定大学】 順天堂大学（千葉県）・杏林大（東京都）

【開催自治体連携】 墨田区（地域協力支援部スポーツ振興課）

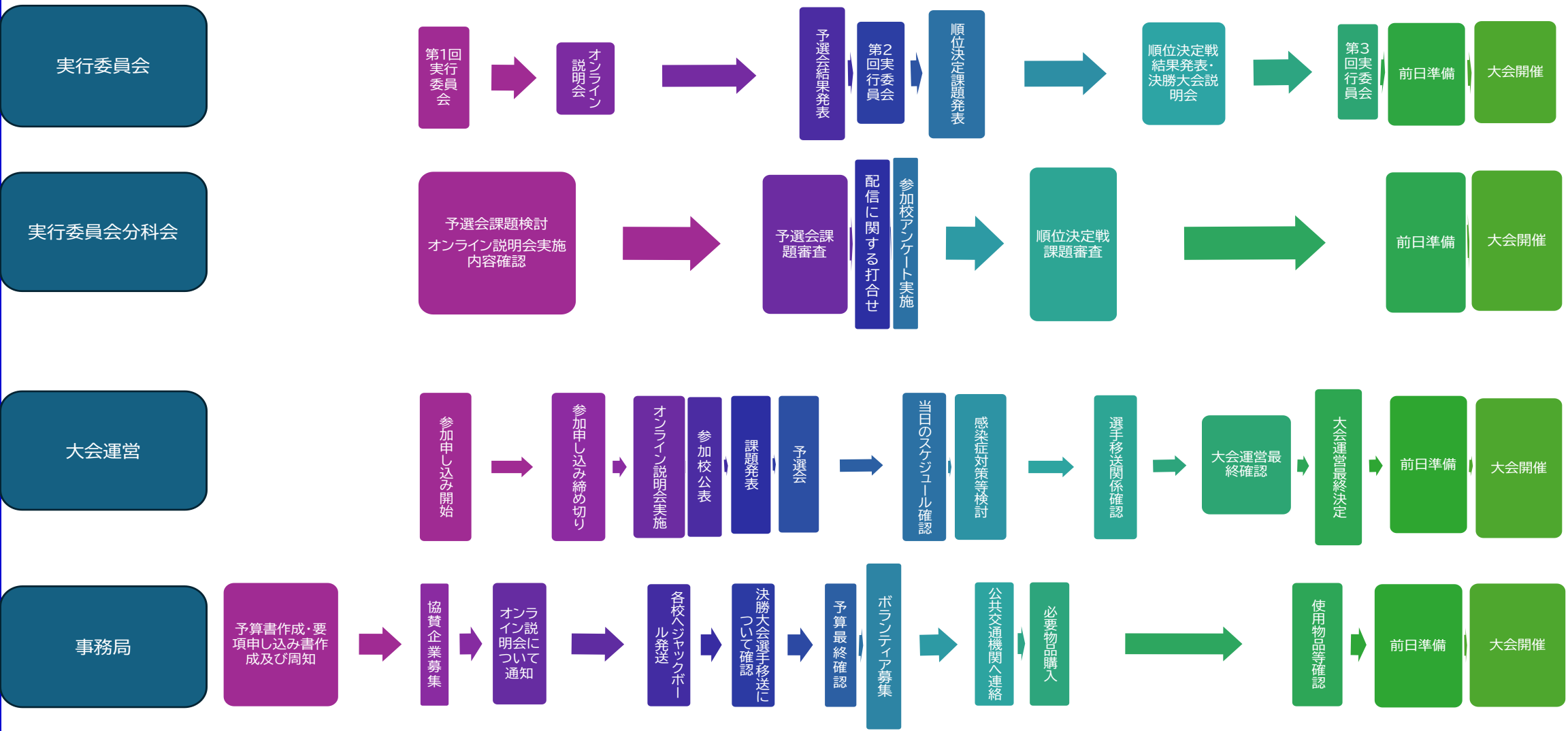
- ① 墨田区、墨田区教育委員会、墨田区体育協会
一般の方や区内の小中学校や特別支援学校、地域のスポーツ団体等へ周知
ボッチャの競技体験スペースを設置・運営
- ② 墨田区教育委員会
障害理解の促進を図るために、小学校へ体験授業を開催
- ③ 全国特別支援学校長会
全国の特別支援学校へ大会周知とボッチャ競技の学校教育への定着
- ④ 公益社団法人日本理学療法士協会
チーム付きのボランティアとして、各チームに理学療法士を配置

第8回全国ボッチャ選抜甲子園 組織図



第8回全国ボッチャ選抜甲子園 実施スキーム

第8回全国ボッチャ選抜甲子園 事業実施スキーム



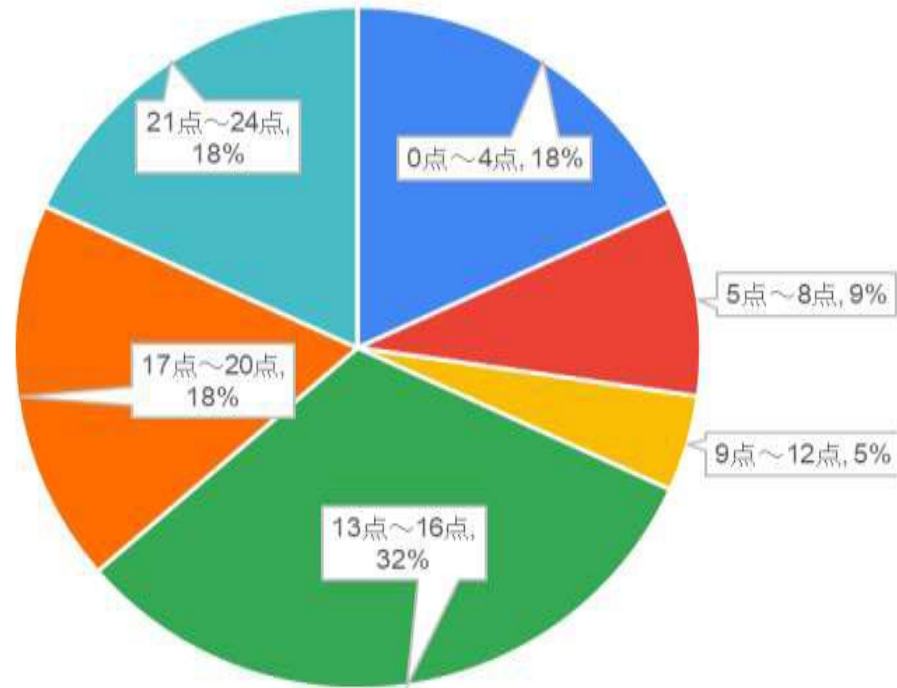
① 全国特別支援学校長会との連携

大会開催に対するアドバイザー
大会開催にかかる周知
参加に対する具体的な呼びかけ

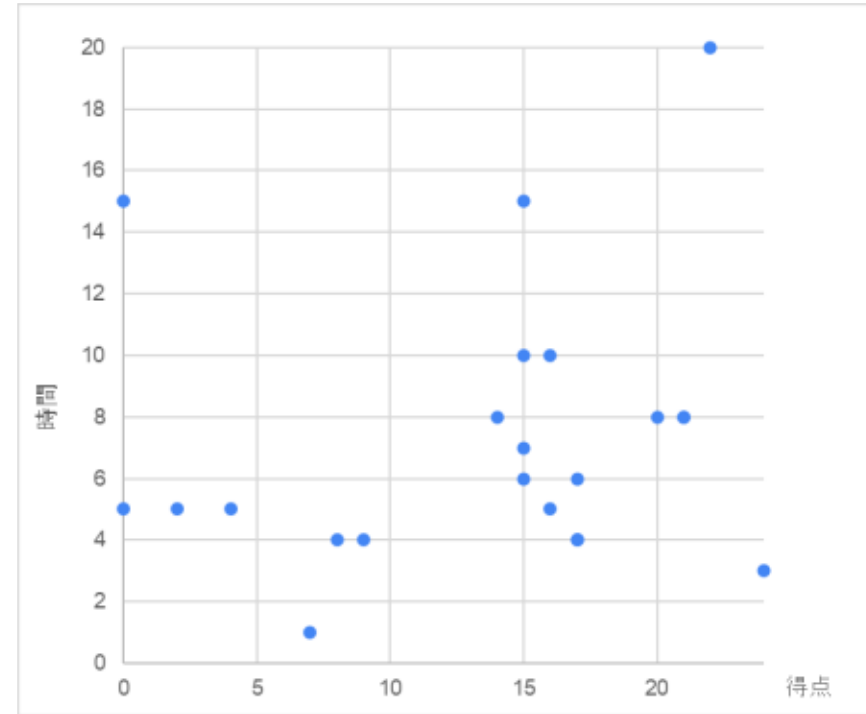
② 本事業で実施する大会の観戦者数および、ライブ配信視聴者数

評価指標	目標値	結果	目標達成率
初参加校数	5	6	120%
来場者数	500	698	140%
ライブ配信視聴者数	300	400	133%
アーカイブ視聴	5,623	4,661	83%

③アンケートの実施



回答校の得点分布



回答校の得点と取組時間の散布図

予選期間中に練習に取り組んだ時間は、 7.3 ± 4.5 時間であった。
最大値は20時間、最小値は1時間であった。

- ④ 本事業を実施することで、障がい者のスポーツ参加増
地域のクラブに参加
日本ボッチャ選手権の予選会、オープンチャンピオンシップへ出場
- ⑤ 墨田区、墨田区教育委員会との連携
区内すべての小中学校及び特別支援学校への周知や観戦促進
 - ➡ 学校授業の一環として小学校 1 校が観戦に来場墨田区と連携し、広く周知
 - ➡ 昨年大会より多い700名近い方が来場
- ⑥ 墨田区スポーツ協会との連携
サポーター講習を開催し、大会ボランティアの養成
- ⑦ 大会協賛企業との連携
大会協賛企業と連携をして、学校訪問プログラムを実施

① 参加校の拡充にむけた横展開

事業を継続していく上で、参加実績がない県から参加校を輩出し、各都道府県から1校ずつのエントリーを目指す

(ア) 全国特別支援学校長会との連携を深化。大会を共催で開催

(イ) 地域ボッチャ協会と連携

地域ボッチャ協会が県内の特別支援学校を訪問して、指導助言

(ウ) 大会協賛企業と連携

学校訪問プログラムの実施。生徒には指導助言、先生にも助言を行うことで競技実施環境を整え、大会参加への意欲向上を図り、大会参加へ繋げる。

② 学校内での継続的な競技実施のための環境整備にむけた横展開

(ア) 地域ボッチャ協会と連携し、継続的な競技実施のための仕組みを構築し、環境整備を行っていく。

(イ) 特別支援学校体育連盟の連携

特別支援学校の体育大会にてボッチャ競技の実施

学校内で継続的に競技実施ができる環境の構築

(ウ) 大会協賛企業と連携による学校訪問プログラムを実施

大会エントリーへ繋げていき、学校内での実施環境の整備を図る。

③ 事業継続のための開催地自治体との連携による横展開

- (ア) 開催地にボッチャが根付き、「ボッチャ甲子園の町」となっていくよう自治体と連携し、周知だけではなく、学校訪問や一般の方に向けた体験会、大会ボランティアの育成等の事業を継続して行っていくことにより、大会そのものを支え盛り上げていく土壌を作る。
- (イ) 自治体の観光事業等とタイアップした事業も展開していく。

④ 事業継続に向けた資金確保の計画

事業を安定的に継続的に開催していくためにも、次年度以降は以下の点について実施し、資金確保に努めていく

- (ア) 協賛企業と連携した事業を展開することで、資金の確保（増額）と参加校の拡大を目指す
- (イ) サブスポンサーの獲得
- (ウ) 民間助成金への申請（継続）